



上田市立東小学校
学校だより

望と勇

令和6年12月9日

No.19

《東小学校ホームページ》 www.school.umic.jp/higashi/ もご覧ください。(最新情報ほぼ毎日更新中)

R6年度 HP 更新回数 4月～11月毎月過去最多 市内小中学校別最多更新 HP アクセス回数最多更新中 ぜひご覧ください!

児童会行事あさかせ祭で「笑顔のボタン」をつなぐ

11月26日(火)、本年度児童会最大行事である「朝風祭」が行われました。4年生以上が所属している児童会の各委員会が出し物・内容等を企画し、前半・後半に分かれてなかよし学級のペア同士で、各委員会のアトラクションを回る児童会イベント。委員会の各アトラクションは、委員会活動の特色も盛り込んだ工夫された内容が準備され、各会場とも大盛況で、子どもたちが「わくわく、どきどき、にこにこ」している姿がたくさん見られ、本当に大盛況で大成功で、笑顔とやさしさが全校中に溢れました。

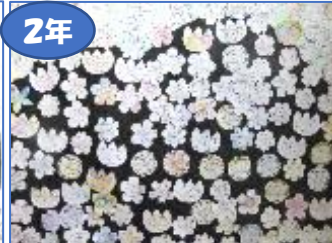
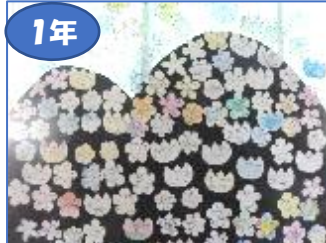
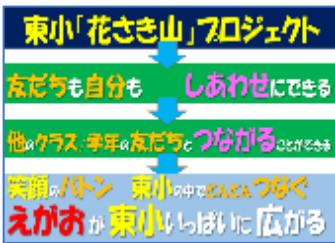
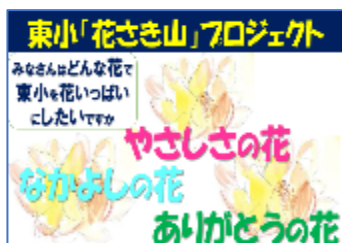


あらためて6年生を中心とした高学年児童の企画力と準備の周到さに感心しました。また、あちこちで低学年の児童の意向を大切にやさしくエスコートする高学年児童の姿、丁寧に各アトラクションのやり方を教える各委員会担当の高学年児童の姿が見受けられ、学年学級の壁を越えた活動が続けてきたなかよし学級交流(異学年交流)のよさをあらためて感じるひとときとなりました。低学年児童は高学年児童に「憧れ」を抱き【憧れの連鎖】、高学年児童は低学年児童に「思いやり」を目に見える行為で引き継ぐ【思いやりの連鎖】、このようにして「笑顔のボタン」を全校でつないでいくことができました。児童会スローガン「三つのわ」(わくわくする/ワンチーム/みんなでわらいあえる)が達成され、「三つのわ」でつながり合うことができました。やり遂げた6年生からは、確かな「充実感・達成感」を感じとることができました。6年生の皆さん、本当にお疲れ様でした。6年生を支えるように動いている5年生。5/6年生を見ながら一生懸命動く4年生。それぞれが自分の立場で頑張る姿が溢れ出し、まさに「幸せな学校」の一日であり、「笑顔とやさしさあふれる学校」でした。【詳細はHP】

「あさかせ祭」で全校の「あいさつパワー」によって助けられた「ひーずるちゃん」が、登校時は、朝風のようなさわやかな笑顔で子どもたちを迎え、下校時は、夕焼けのようなあたたかな微笑みで子どもたちを送り出してくれています。



「東小学校の花さき山」が「ふわふわ言葉」で満開に





活動の締め括り管楽器班・合唱班の「ありがとうコンサート」



12月1日(日)、上田市文化会館で課外班による「ありがとうコンサート」が開催されました。素敵な演奏をありがとうございました。ご来場いただいた保護者の皆様には感謝申し上げます。「ありがとうコンサート」は、4年生・5年生・6年生の班員にとって、一年間の活動のまとめとなるイベントです。

朝や放課後の活動に取り組み、確実に実力を伸ばすことができました。6年生の班員は、このコンサートをもって、課外班から引退することになります。今まで班員をまとめ、班をリードしてくれました。ありがとうございました。新入部員の募集も始まり5年生以下の新体制で活動がスタートしています。班員で協力しながら、合唱・演奏を通して自分たちの「好き」「楽しさ」を更に追究してほしいと願っています。【詳細はHP】

「豊かな読書生活のきっかけに」～秋の読書月間～

◆期間：12月2日(月)～26日(木)

「秋の読書月間」

◆主な実施内容

- ① 毎日「3さつ」貸出
- ② 読書ビンゴ
- ③ おすすめの本の紹介(先生も子どもたちも)
- ④ ゆったり読書(おうちでも、学校でも)
- ⑤ うさぎのしっぽさんの楽しい読み聞かせ

12月9日～20日はご家庭でも
本の世界をお楽しみください!
1～3年生「親子読書」
4～6年生「読書記録」



「読書の教育力には、速効性はありません」とよく言われています。本を読めばたちまち成績が上がったり、性格がよくなったりするものではありません。それでは、なぜ本を読むのでしょうか。そして、なぜ読書を推奨するのでしょうか。それは人間として成長するために、経験を広げることが必要だからです。本を読む楽しみのひとつに、自分が経験したことのない未知の世界への遭遇があります。好奇心に満ち、知りたがり屋の子どもにとっては、行ったことのない世界や宇宙の神秘をのぞくことは、遊びと同じでとても楽しいことです。主人公と一緒に冒険をしたり、自分が主人公になって正義に立ち向かおうとしたりします。こういう知的探究を本の中で獲得するのは、スポーツと同じように楽しいことです。ですから、こういう楽しさを追いかけるのは、子どもの成長エネルギーにつながります。なぜなら、子どもが一人前の社会人になるには必要な体験を積み重ねなければなりません。しかし、子どもを取り巻く環境はせまいし、時間も限られています。好奇心に満ちて、「何でもやろう。何でも見てやろう。」と意気込んでも何もかも経験することはできません。ここに読書の意義があります。読書が体験を補足するのです。現実の生活では、飛行機で空を飛んだり、外国に行ったりできるし、これまでの歴史や時代の中でも生きることができます。また、役者が役の上で様々な人生を演じるように、子どもたちは絵本の中で、遊びながら現実の生活を広げていきます。自分以外の動物や人物にもなります。誰にでも変身願望があります。英雄崇拜もあります。直接的な体験ができなくても、本を読んで間接的に経験を増やしていくのです。【詳細はHP】

